

コード	40103
作成年度	22年度

## 基本事業評価表

基本事業名称	水産業基盤整備の推進
--------	------------

総合計画の位置付け	
政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保
施策名称	水産業の振興

課コード	116	関係課名
主管課名	水産課	

### 基本事業の目的

作業の効率化、安全性の確保等就労環境にも配慮した漁港施設の整備や漁業集落環境の改善にむけた施設整備に取り組むことにより、水産業基盤整備を推進することを目的とする。

### 基本事業の成果

成果指標名称 1	年間事業数	成果指標名称 2	事業完了数
成果指標の積算根拠	当該年度事業数	成果指標の積算根拠	事業完了数(累計)／継続・計画事業数(15)
目標達成年度	平成22年度	目標達成年度	平成26年度
目標達成数値	5	目標達成数値	17

年 度		H18	H19	H20	H21	H22
成果指標1	目標 A	事業 6.0	3.0	3.0	3.0	5.0
	実績 B	事業 6.0	3.0	3.0	3.0	
	達成率 B/A	% 100.0	100.0	100.0	100.0	
成果指標2	目標 A	事業 3(7)	1(8)	1(9)	0(9)	4(13)
	実績 B	事業 3(7)	1(8)	1(9)	0(9)	
	達成率 B/A	% 47.0	53.0	60.0	60.0	

1次評価	現状	漁港機能施設としての外郭、係留、用地の施設整備はほぼ完了しているが、高齢化が進む漁民対策や軽労化を図る為の浮桟橋や用地舗装、集落道の整備など要望に添った計画、実施を行っている。
	課題	漁港事業は補助事業が主であり、要望箇所の計画、実施に関して費用対効果の算出が重要になっている。しかし、利用実績や水揚げがあるにもかかわらず、費用対効果に反映されにくく、新規補助事業に取り込みにくいのが課題である。また、老朽化している施設もあり、調査を進めながら施設の補強を行うなどの検討が必要である。
	改善	整備計画を行う段階で、費用対効果が得られるのか？事業が必要なのか？等の検討を行いながら、安易な計画にならないよう、効果が発揮できるように進めていく。また、補助事業が無理な必要な事業や老朽化に対しては、現状の把握を行いながら、事業費が安価に出来るような工法や時期、補助制度を見据えながら検討していく。

2次評価	漁業基盤整備においては事業効果を検証しつつ計画的な整備を図ることにより、漁業者の作業の効率化・安全性を高める環境整備に努めること。
------	---

住民等の意見	
--------	--

町の対応	
------	--

※2次評価の公表後に住民等の意見があった場合には、再度公表するものである。